

オンライン授業の成績評価（学習評価）について

本資料では、オンライン授業に関する、成績評価（学習評価）について基本的な知識や考え方を示していきます。なお、本学では、原則、成績評価はレポートにより行うものとし、LMS（manaba）上の「レポート」等の活用を推奨しています。それを踏まえたうえで、本資料が少しでも先生方のオンライン授業における設計の一助になれば幸いです。

【目次】

1. 文部科学省の方針（成績評価について）（P1）
2. オンライン授業の成績評価（学習評価）のポイント（P2）
3. オンライン授業において学習評価する方法（P2～5）

1. 文部科学省の方針¹（成績評価について）

成績評価については、4・21通知（問21、22）で一定の方向性が示されました。

問21「**あらかじめ学生に示していた方法で成績評価することが困難となった場合、成績評価方法を変更することは許されるのか。例えば、評定を付すとしていた科目について、合否のみで評価することは可能か。**については、「**各大学の判断により、学生に対してあらかじめ示していた成績評価方法を変更すること（評定を付す方法から合否のみによる評価方法への変更も含む。）は可能であり、各授業科目の到達目標に応じた適切な成績評価手法を選択していただくとともに、変更にあたっては学生に対する丁寧な説明に努めるようお願いいたします。**」。

すなわち、科目担当者においては、成績評価方法を変更する場合、オンライン授業の初回でエビデンスが残る形で、学生へ説明することが必要です（学生からの問い合わせ対応や、教育の質保証の観点からも求められます）。

¹ 文部科学省「学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係るQ&Aの送付について（4月21日時点）」を参照にしています。5月1日版 NEWSLETTER 特別号の該当箇所を再掲。
https://www.mext.go.jp/content/20200421-mxt_kouhou01-000004520_7.pdf

2. オンライン授業の成績評価（学習評価）のポイント

オンライン授業の成績評価（学習評価）については、海外大学²³⁴や国内大学⁵でポイントをまとめています。これらの中で特に重要なものを3つ挙げます。

（1）教室における一斉試験をオンラインで完全に再現することは難しい。

一斉で、時間制限があり、何も参照させない一斉試験はオンラインで再現することは難しいです。

（2）ICT ツール（manaba の機能）を前提に設計する。

manaba では、小テストにおける自動採点機能や、レポート提出と個別のフィードバック機能、掲示板などオンラインならではの利点もあります。また動画などの課題提出なども可能になります。

（3）複数回で評価を行う（形成的評価を導入する）。

継続的に小テストやミニレポートを課し、フィードバックを行うことで、学生の学びの継続性につながります。1 回限りの期末試験をオンラインで実施することは、学生・教員の双方に負荷の高い作業を求めることとなります。

3. オンライン授業において学習評価する方法

Brown, S. & Sambell, K.(2020)⁶や大阪大学全学教育推進機構（2020）⁷は、オンライン授業で代替可能性が高い評価方法について、次のように整理しています⁸。

² Harvard Courses Turn to Monitored Exams, Open-Book Assessments, and Faith in Students As Classes Move Online

<https://www.thecrimson.com/article/2020/3/27/harvard-coronavirus-online-exams-academic-integrity/>

³ Stanford Teach Anywhere, Instructor Resources for Remote Exam Administration

<https://teachanywhere.stanford.edu/remote-exam-administration>

⁴ Tufts Online Assessment

<https://sites.tufts.edu/teaching/assessment/online-assessment/>

⁵ 大阪大学全学教育推進機構「オンラインで学習を評価するための10のポイント」

<https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/project/onlinelecture/tips02.html>

⁶ Assessment alternatives at a time of university closures

<https://sally-brown.net/2020/03/13/assessment-alternatives-at-a-time-of-university-closures/>

⁷ 大阪大学全学教育推進機構「オンライン授業で学習評価をするための方法」

<https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/project/onlinelecture/tips03.html>

⁸ 文言や代替ツール（[・・・] で表示）については本学の状況に沿ったものに加筆修正しています。

教室の授業 で使用して いた評価方 法	オンライン授業で代替可能 な評価方法	留意事項
教室での筆 記試験	<p>持込可のオンライン試験 (実質的にレポート)</p> <p>[manaba、メール等]</p>	<p>学生は教材を参照することが できるので、試験は覚えたこと を思い出すものから知識や情 報を応用するものへ変更する 必要がある。</p> <p>課題の方針変更にあたり、学 生への指導も重要である。</p> <p>manaba などの学習支援シ ステムを使わなければ、大人数 授業で行うことは難しい。</p> <p>剽窃などの不正行為を防止す るために、ウェブからの剽窃が ないかチェックするためのソフ ト等を使用するがあると学生に 伝えておく。</p>
教室での プレゼンテ ーション	<p>音声付きスライドを電子ファイ ルで提出。</p> <p>[manaba、メール OneDrive 等]</p>	<p>プレゼンを録画する場合、学 生は 1 回限りのプレゼンに比 べると、より多様な方法で準備 できる。</p>
ポートフォリ オ	<p>紙のポートフォリオから e ポー トフォリオへ変更。</p> <p>[manaba、OneDrive 等]</p>	<p>ネット環境が十分ではなかつた りデジタル機器の扱いに自信 が無かったりする学生にとつて はかなり困難なものであり、追 加の指導が必要である。</p>

口述試験	遠隔通信手段を利用した口述試験。 [Teams、Zoom、Skype、LINE 等]	学生に十分な経験がない場合、自信を持って試験を受けることができるように支援が必要である。
グループディスカッション	WEB 上で開催するグループディスカッション。 [Teams、Zoom、WebEx 等]	学生やスタッフがこのような学習に慣れていない場合、支援が必要である。
実験・実習	実験・実習のすべてをオンラインで行うことは難しいため、いくつかをシミュレーションで再現。実験結果を得るといよりもデータを解釈する方に焦点。	学生によって異なるデータセットを提供することで、同一データでの分析結果(コピー)が拡散するリスクや、解釈の酷似を避けることができる。
ポスター	デジタルインフォグラフィックやマインドマップ、その他の可視化ツールを使って、manaba 等で提出。 学生同士共有することでピアレビューが可能。 [manaba、OneDrive 等]	提出者の本人確認のためには、短時間でもオンライン口頭試験を行えば確認・補足ができる。
客観的臨床能力試験 (OSCE) 等	様々な実務を行っている自身の様子をビデオで収録して、eポートフォリオとして提出。 [manaba、YouTube、OneDrive 等]	看護実務や薬品の計測など、特定の能力が完璧に要求される専門領域では、実施できない可能性がある。
相互評価と相互支援	お互いのレポートにコメントをつけてメールでの送信や、manaba(掲示板)等を活用した学生同士の学びあい。 [manaba 掲示板、メール等]	

<p>実演(演劇やダンスなど)</p>	<p>個人やグループ単位で、準備を行い、活動の様子をビデオに収録し、振り返りシートや報告書とともに提出。 [manaba、YouTube、OneDrive 等]</p>	<p>グループで集まることができない場合がある。 離れた場所でのグループでの実演は、まとめるのが大変かもしれない。 動画では、本物の実演を複製することはできないが、危機的状況では有効だろう。</p>
<p>対面によるフィードバック</p>	<p>チューターによる音声や動画配信による個別およびグループへのフィードバック。 [manaba、Teams、Skype、LINE、YouTube 等]</p>	